

第4回たつの市新宮地域小中一貫校開校準備委員会小学校区部会（越部小学校）
議事録

日時 令和6年9月25日（水）
午後7時から
場所 越部コミュニティセンター

1 開 会

2 報 告

第4回開校準備委員会の開催結果について【資料1】

事務局から説明

質疑応答なし

3 議 事

新宮地域小中一貫校における通学手段について

事務局から説明

<質疑応答>

（委員）

新宮地域全体で見て、スクールバスに乗車できない地域がどこで、距離がどれくらいあって、その地域は徒歩で行くのか。

（事務局）

3キロ未満である地域が、東栗栖で平野、香島で吉島と下笹がある。前回の部会で説明させていただいたが、3キロという基準を設けるが、バスの定員に余裕があり、ダイヤに遅れない場合には、3キロ未満の地域についてもバスに乗車できるような運用案を考えている。平野については、集会所から学校までの距離が約2キロであるが、運行ルート沿いに停車できる場所があると報告を受けている。下笹については、約2キロだったと思うが、想定される通学路は堤防の道路になるが、そこには歩道がなく、路肩もないようなところを歩くことになるので、事故の危険が高いことからバスに乗車できる地域としている。吉島については、2キロ未満の距離で、現在はバスが停車できる場所を検討していただいている状況である。

（委員）

同じ3キロ未満でありながら、他地区では乗れることを聞いていたので、その状況について尋ねたところである。

(事務局)

距離的な基準を3キロ未満に縮めると、他の校区でもその距離を歩いている児童がいるので、3キロという距離を設定させていただいたところである。3キロという基準にした場合に様々な意見をいただいております、そのことについて教育委員会で検討させていただき、教育委員会としては7台目を検討しているところである。7台目が用意できればと思うが、運転手の確保の問題があるので、時間をいただきたい。段之上を通行することになった場合に備えて、バスの試走もしながら検討しているのでご理解いただきたい。

(委員)

東栗栖の便を越部に回すことはできないのか。

(事務局)

東栗栖の児童らの乗車時間が早くなってしまうので、現在は校區別で検討している。

(委員)

越部の児童で乗れない子がいる一方で、その子たちより距離が短いのに乗れる子がいることの説明を学校がしてくれるのか家庭ですることになるのか。

(事務局)

現在校区単位で考えている。ある地区を乗せると、その地区より遠い地区でも徒歩で通学する児童もいる。バスの運行上、余裕があるのであれば乗ることができる運用にしようかと検討していたところである。

(委員)

船渡と北村の児童はどこで集合するのか。

(事務局)

市営船渡住宅の北側の道路が太いので、そこで停車することを考えている。

(委員)

仙正などは通行する道路に停車する箇所がないからコミセンに集合するのか。

(事務局)

中型バスになるので集落に入っていくことは、地域住民の生活に迷惑がかかるおそれがある。

(委員)

馬立に西播磨特別支援学校のバスが停車している箇所がある。

(事務局)

今はバスのルートと台数を協議できれば良いかと思うので、詳しいところは追って協議していきたい。危険回避の面からバスの停車は道路の左手、走行もできる限り左折を基本に考えている。また、スクールバスで登校することで児童が歩く機会が減っ

てしまい、体力の低下につながってしまう（ため、ある程度の距離を歩くことも必要と考える。）。タクシーではないので、ドアトゥドアの考え方ではない。仮に、段之上の児童がバスに乗車することになった場合でも、段之上地区が南北に長いが、一か所で乗降してもらうことを想定している。

（委員）

バスが乗車定員45人乗りであるが、児童らが乗車するに当たり、その定員はどのように計算するのか。

（事務局）

シートベルトのことがあり、一人一座席として計算している。

（委員）

1・2年経って児童数が減ると、運行ルートが変わるかもしれない。

（事務局）

この時点で決まったルートで10年やっていきたいと思いますということは想定していない。バスが余ることも想定していく必要がある。

4 その他

5 閉 会